

畑作・作物によっては
移植日、植付日
を記入。

土質・土性を記入。
()内には
処理時の土壌の乾湿を記入。

一伊:一年生イネ科,一非:一年生非イネ科,
多伊:多年生イネ科,多非:多年生非イネ科,
他:その他 を記入。

完全除草区の収量
(実数: kg)

無除草区の
対完全除草区比。

薬剤 /作物	試験 場	試験 条件	使用量	草量(対無除草区比)										葉害 症状 程度	収量 対完全 除草区 比	減収 の 原因	総合 評点	判 定	所 見	
				一イネ			一非				合計									
ABC-123 液 大豆	〇〇県農業試験場 場内圃場	品種:***	無処理	イビ ¹	北洲 ¹	他	イタ ¹	ハコ ¹	アノ ¹	タカ ¹	他	合計							効果の 高い 草種	
		田畑の別:畑		10.6g	136.5g	2g	82.3g	56.6g	17.8g	1.2g	0.5g	(100%)							北洲 ¹ 、イタ ¹ 、ハコ ¹ 、 アノ ¹ 、タカ ¹	
		土壌条件:火山灰壌土 (適湿)										g	307.5g							効果の 低い 草種
		播種日:H00/ 5/20 播種		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%							・各薬量とも広葉雑草に 効果高い。 ・イビ ¹ は処理後の発生 多く残草多。 ・100, 150mL の薬害は軽 微で回復早い。 ・200mL は薬害が強く、 減収した。 ・100~150mL で一年生広 葉雑草を対象に実用化 可能。
		処理時期:初生葉展開期 H00/ 6/10 (+21)	100mL	45	3	0	4	1	11	t	0	5	黄化	微	98	薬害	A ₁ A ₁ B ₀	◎ ◎ △		
調査日:H00/ 6/30 (20日後)	150mL	18	1	0	6	0	8	0	0	3	黄化生育抑制	微	103							
処理方法・処理時の状況 全面茎葉処理(水量 100L/10a) イビ ¹ 発生始, アノ ¹ 子葉, イタ ¹ IL, ハコ ¹ ・アノ ¹ 1~2L 大豆初生葉展開期	200mL	23	t	0	1	0	1	0	0	1	黄化生育抑制	小	91							
		対DEF乳	150mL	88	5	0	1	3	0	5	0	6		無	102					

① 散布水量が全て同じ場合は、
ここに明記する。

② 散布水量が区によって異なる
場合は、ここに明記する。

④ 対完全除草区比。

① 処理時期

- a) 処理時期と暦日を記入する。
- b) 播種後日数もしくは移植後日数を、
+をつけて()で示す。

② 処理方法・処理時の状況

- a) 雑草発生後の処理の場合は、処理時の主
要雑草の状態(発生程度、葉齢、草丈な
ど)及び作物の状態を示す。

③ 雑草量

- a) 風乾重もしくは生草重対無除草区比で示し、小数点以下
は記入しない。なお、極めて僅かな残草量で小数点以下
を四捨五入しても整数値にならない場合は t(trace)と
記入する。
- b) 調査雑草は、草種別に発生量の多い順に記入する。対象
外草種は()付きで記入し、総計には含まない。
- c) 体系処理の場合は、必ず後処理剤の雑草調査時に前処理
剤単用区の雑草調査を行い、前処理剤単用区の実数値を
無処理区欄に記入する。

④ 葉害

- a) 葉害が認められた場合には、症状、程度(試験期間中を
通して)を示す。

⑤ 減収の原因

- a) 減収したと判断された場合は、その要因を記入する。

⑥ 所見

- a) 除草効果、葉害(回復状況等)および実用性等についてコ
メントする。
- b) 試験実施上の特記事項があれば記入する。

*** 注意 ***
斜線部分は印刷されません。
書き込まないで下さい。
縦罫線は、ずらさないで下さい。

畑作・冬作関係 除草剤 成績概要用紙 (薬害試験)

薬剤 作物	試験場所	試験条件	使用量 (製品) (/10a)	調査結果				薬害		収量 対完全 除草区 比 (% ¹⁶) kg/10a	減収 の 原因	総合 評点	判 定	所 見
				草丈(7/7)	着葉数(7/7)	主茎長(10/22)		症状	程度					
ABC-123液 大豆	〇〇県農業試験場 場内圃場	品種: ※※※	完全除草	草丈(7/7)						165	—	—	・播種 10 日前処理 ・通常量、倍量処理とも に小豆の発芽や生育、収 量への影響は認められ なかつた。	
		田畑の別: 畑		16.1cm	2.1	58.3cm				kg/10a				
		土壌条件: 火山灰土・砂壤土 (適湿)	500mL	15.8	2.1	58.8		—	無	95%				
		播種日: H00/ 6/18	1000mL	15.6	2.0	57.8		—	無	99				
		処理時期: 播種 10 日前 H00/ 6/ 8 (-10)												
		調査日: H00/7/7, 10/22												
		処理方法・処理時の状況 播種前(水量 25L/10a) 全面茎葉処理 少水量散布ノズル使用												

散布水量が全て同じ場合は、ここに明記する。

散布水量が区によって異なる場合は、ここに明記する。

総合評価、判定は記入不要

*** 注意 ***
 斜線部分は印刷されません。
 書き込まないで下さい。
 縦罫線は、ずらさないで下さい。

薬剤 作物	試験場所	試験条件		試験結果要約									判定	所見 (ねらい・考察・使用基準等)
		品種	※※※	処理区別	枯死茎葉割合(%)			枯周期 (月日)	上いも重 (kg/10a)	同左 比率 (%)	でん 粉価 (%)	維管束褐色変		
ABC-123液	〇〇県農業試験場 場内圃場	土壌条件	火山灰壌土		2日後	5日後	8日後					発生率	発生度	
ばれいしょ	〇〇県農業試験場 場内圃場	播種・移植日	植付：H00/4/3 畦幅：75cm 株間：30cm	100mL/10a	25	40	90	8.12	3.264	101	16.7	9%	3	◎ ねらい：ばれいしょに対する枯凋効果の確認、品質への影響 ・いずれの薬量とも高い枯凋効果が認められ、枯周期は無処理に比べ13~17日早くなった。 ・処理により維管束褐色変が助長されることはなかった。 ・上いも重、でん粉価は、無処理区と差がなかった。 ・100~200mL/10aで実用化可能。 使用基準： 茎葉黄変期 100~200mL/10a<水量 100L> 茎葉処理
		施肥	N:8, P ₂ O ₅ :20, K ₂ O:14 kg/10a	150	30	50	95	8.8	3.315	103	15.8	5	1	
		処理時期	茎葉黄変期 H00/7/29	200	30	60	95	8.8	3.205	100	16.0	8	1	
		処理方法等	炭酸ガス加圧式噴霧器で 全面茎葉処理 (散布水量:100L/10a、展 着剤無加用) 1区9m、3反復	対)DEF液剤 150mL/10a	30	50	90	8.12	3.369	105	15.6	11	2	
			無処理	0	5	10	8.25	3.216	100	16.3	6	2		

処理時期と暦日を記入する。

散布水量が区によって異なる場合は、明記。

散布水量が全て同じ場合は、ここに明記する。

*** 注意 ***
 斜線部分は印刷されません。
 書き込まないで下さい。
 縦罫線は、ずらさないで下さい。

① 判定

- a) 下記の基準に基づき判定する。
 (除草剤と同じ基準)

判定	基準
◎	実用性有り判断されるもの
○	有望だが年次変動の確認が必要なもの
△	問題点があり、さらに検討の必要なもの
×	実用性のないもの

② 所見

- a) 試験のねらいを明記する。
 b) 試験結果、実用性等についてコメントする。
 c) ◎または○と判定された場合は、使用基準を記入する。
 d) 試験実施上の特記事項があれば記入する。